研修コーナー

研修リモート化への取組みについて

研修部

近年、知識習得の手法について、いつでも・どこでも学べるサービス、ツールが多く提供され、学習や研修のスタイルも大きく変わってきているといえます。

協会計画研修においてもコロナ禍もあり、集合形式の研修からリモート形式の研修へ移行、拡大してきておりますが、その状況について紹介します。

1．研修リモート化の拡大

研修のリモート化は、2020年のコロナ感染拡大の状況下で、集合形式にかわりオンライン映像ツール類を使った研修形態を検討し、同年８月より試行、９月より本格実施し、2020年度は61コースの研修がリモートで受講可とし、2021年度は集合研修14コースをリモート化に変更し75コースの研修をリモートで受講可としております。

研修リモート化のメリットとしては、

・全国から受講可能
・移動時間軽減
・受講者枠拡大
・コロナ感染リスク回避
・テキスト電子化

などといったことがあげられ、具体例として、集合研修では定員40名の研修がリモート化をすることで定員80名に拡大でき、実際に全国各社より74名もの方に受講いただいた研修があります。

さらにリモートツールの機能や研修プラットフォームなどを活用し、理解度テストやアンケートの自動採点や集計、電子テキストの配布などの効率化が図れるといったメリットもあります。

一方、デメリットとすると

・実技、実習で得られる技能スキル習得に不向き
・グループワーク／演習には不向き
・通信状態、環境等により聞きづらい、見づらいなど学習効果の低下

といったことなど、上記は受講者からの声としてもいただいております。

2．研修リモート化に伴う工夫、改善について

研修のリモート化のメリットを最大限活かしつつ、デメリットを克服すべく対応策の一例として、宅内端末やルータ機器を設定する研修において、リモートで設定演習ができる環境を構築（図１・写真１・２）、講師側のサポートを手厚くし、進捗状況等をリアルタイムで一元的に把握しながら受講生へのサポートをきめ細やかに実施することで、集合研修と遜色のない技術習得をリモートで可能とした研修を実施しています。

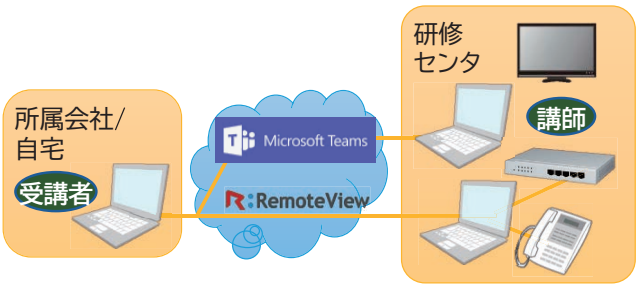


図１　リモート研修形態

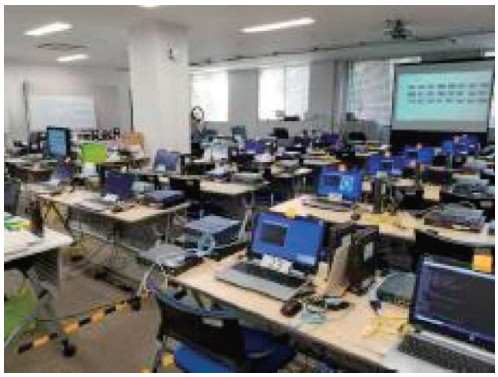


写真１　LAN/WANリモート研修環境

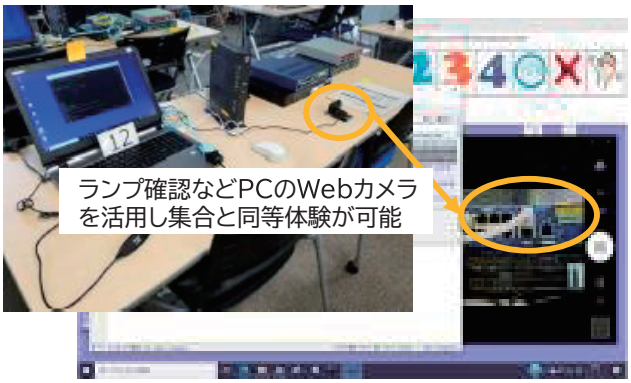


写真２　リモート実習模様

また、「Zoom画面上のホワイトボードが見えにくい」との声に対し、講師側から受講生にPDF資料の説明時、iPadの画面ミラーリング機能を利用（写真３）し、PDF資料へのリアルタイムなコメント入力やアンダーラインによる解説手法を試行、導入したり、ホワイトボード頭上の蛍光灯を外してみたりと、より分かりやすいツールの導入や環境等の改善など試行錯誤しながら取り組んでおります。

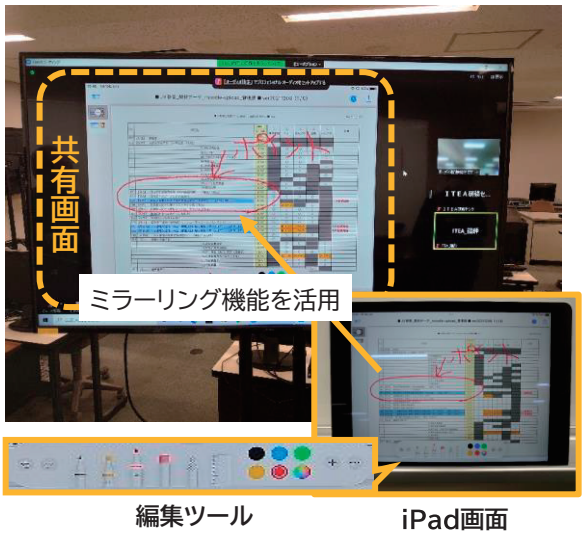


写真３　リモートツール活用例

■本記事に記載の製品名やサービス名等は、各社もしくは各団体の商標または登録商標です。

３．リモート研修を受講するにあたり

研修をリモートで受講していただく際に大切なこと、考慮いただきたい事項が２つあります。

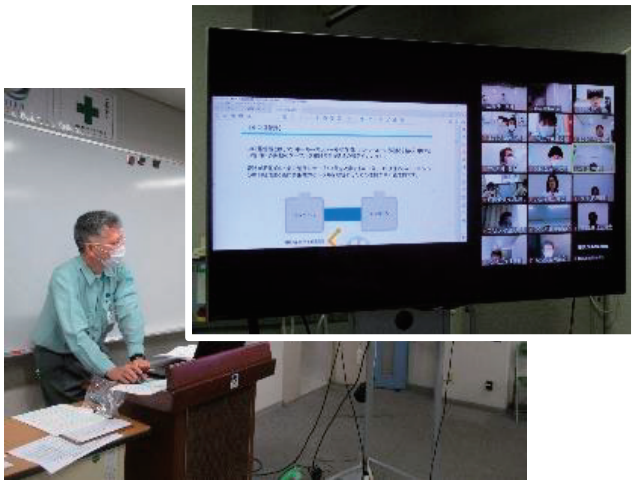
１つ目は事前準備です。リモート研修はインターネット環境やツール類を使用します。受講者は、開催案内による研修内容確認や研修資料のダウンロード、事前接続確認による受講環境把握を実施したうえで研修日を迎えることとしています。しかしながら、「メール未確認」や「資料ダウンロード忘れ」、「事前接続確認未実施」などから、研修当日に諸々の対応が生じることで研修開催に遅延を及ぼすケースもありますので、事前に研修内容や事前接続などの確認は大切なことといえます。

２つ目として、研修を受講する環境です。研修中に周囲の音が聞こえるため聞き取りづらく理解不足になるといったこともあるため、受講される部屋やヘッドセットなどの環境面やツール類を整えることも、研修効果をより高めることにつながり大切といえます。

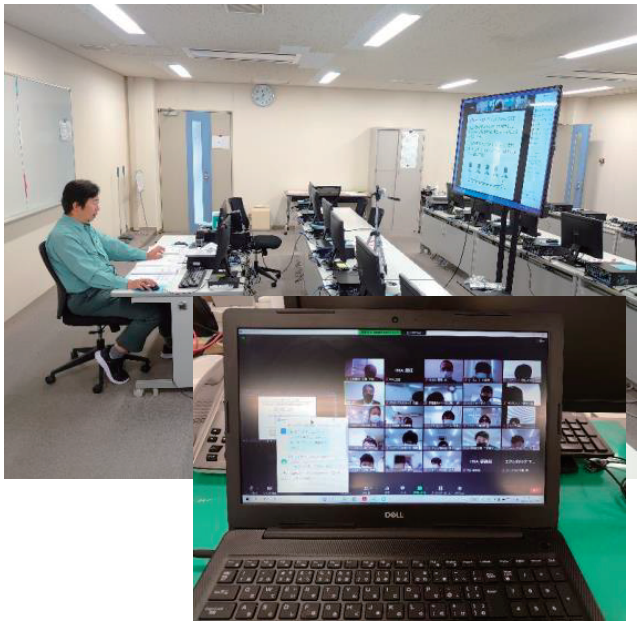
４．おわりに

研修のリモート化は、まだまだ改善や工夫の余地があるといえます。

座学に加え演習、実習を多用し実技を習得するには集合での研修形態が現時点では必然的である一方、知識習得やある程度の演習、実習はツール類の進化、活用を踏まえリモートで実現できる範囲は今後広がるといえ、受講者からの声、要望も踏まえながらより充実した研修内容、運用に努めてまいります。



リモート研修模様（土木設計科）



リモート研修模様（所内系装置技術科）